

『地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化』地域研究画像デジタルライブラリ DiPLAS採択プロジェクト一覧

研究期間		研究課題名	代表者	代表者所属機関
開始年	終了年			
2013	2016	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	片岡 修	関西外国語大学・教授
2014	2016	滞日ネパール人の生活実践と労働動態の研究	森田 剛光	国立民族学博物館・外来研究員
2014	2016	アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史生態人類学的研究	嶋田 義仁	中部大学・客員教授
2015	2018	モニョミジ・システムの人類学的研究:南スーダンにおける小政体、民族間関係と国家	栗本 英世	大阪大学・教授
2015	2018	アフリカ先住民のディレンマと将来像に関する研究	市川 光雄	京都大学・研究員(名誉教授)
2015	2017	南アジアの紅玉髓製工芸品の流通と価値観—「伝統」と社会システムの変容の考察	小磯 学	神戸山手大学・教授
2015	2017	ウイグル族・朝鮮族・チワン族の文化大革命に関する実証研究	大野 旭 (楊 海英)	静岡大学・教授
2016	2021	モンゴル仏教のグローバル実践に関する学際・国際的地域研究	島村 一平	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
2016	2019	半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的紐帯の変化に関する実証的研究	縄田 浩志	秋田大学・教授
2016	2018	リモートセンシング技術を用いた中国内蒙古自治区の遼代皇帝陵の同定と文化財調査	牟田口 章人	帝塚山大学・教授
2016	2020	アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築	關 雄二	国立民族学博物館・教授
2017	2020	アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の近代動態分析—「近代世界システム」との相克—	児玉 香菜子	千葉大学・人文科学研究院・准教授
2017	2021	モンゴルに関する画像記録を用いた地域像の再構築	小長谷 有紀	国立民族学博物館・併任教授
2017	2020	南中国と周辺地域における地域伝統知を中心とした持続可能開発モデルの共創	蔣 宏偉	総合地球環境学研究所・研究基盤国際センター・特任助教
2017	2021	モンゴルに関する画像記録を用いた地域像の再構築	辛嶋 博善	国立民族学博物館・北東アジア地域研究拠点・特任助教
2017	2019	フィリピンにおけるエンパワメントを目的とした沿岸資源管理と災害復興に関する考察	瀬木 志央	甲南女子大学・講師
2017	2019	漁民とジュゴンの海域利用特性の解明による共存型海洋保護区モデルの創出	中村 亮	福岡大学・人文学部・准教授
2017	2019	イランにおける「宗教」の社会的布置の変化に関する人類学的研究	椿原 敦子	龍谷大学・社会学部・准教授
2017	2020	アフリカ半乾燥地における農牧共生に基づく持続的農村開発に関する実践的研究	鶴田 格	近畿大学・農学部・教授
2017	2019	人類学における不確実性をめぐる理論的視座の再構築	碓 陽子	明治大学・専任講師
2017	2020	日本と中国の地域資源をいかした都市・農村間連携モデルと持続可能コミュニティの創出	藤田 香	近畿大学・総合社会学部・教授
2017	2019	アンデスにおける聖人信仰の展開に関する人類学的研究—聖像の所有と継承に注目して	八木 百合子	国立民族学博物館・助教
2017	2019	現代インドにおける文化産業の多層化— Bollywood映画と地域語映画の相関関係を事例に	飯田 玲子	京都大学・特定助教
2018	2021	南海産品の管理・生産・販売をめぐる実証的研究—タイとミャンマーの漁民を事例として	鈴木 佑記	国土館大学・准教授
2018	2023	「満洲」・モンゴル社会の再編と戦後の中国社会	ボルジギン プレンサイン	滋賀県立大学・人間文化学部・教授
2018	2021	苦悩に対処する社会装置としての儀礼に関する人類学的研究:エチオピアの事例から	松波 康男	明治学院大学・准教授
2018	2020	現代イランにおける長期的紛争介入構造をめぐる殉教概念の変容と政治言説化の研究	黒田 賢治	国立民族学博物館・現代中東地域研究拠点・特任助教
2018	2020	系統解析手法を用いた知識の伝達・継承・変容・拡散に関する実証的研究	佐藤 廉也	大阪大学・大学院・文学研究科・教授
2018	2021	子どもと地域と研究者が共創するサニテーション	山内 太郎	北海道大学・保健科学研究所・教授
2018	2022	中央アジアにおける牧畜社会の動態分析—家畜化から気候変動まで	児玉 香菜子	千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授
2018	2020	放牧地における「景観の分断化」に関する地理学的研究	手代木 功基	摂南大学・外国語学部・講師
2018	2021	三線の製作課題解決に向けての生態音楽学的実践研究	小西 潤子	沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授
2018	2021	オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究	小野 林太郎	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授
2018	2021	アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来技術革新史」への視角	杉山 祐子	弘前大学・人文社会科学部・教授
2018	2021	東南アジア水辺集落の居住文化・景観の再生とリパース・イノベーションによる発信	中村 真里絵	立命館大学・非常勤講師
2018	2020	開発と地域住民によるローカリティとアイデンティティの再編に関する人類学的研究	中田 友子	神戸市外国語大学・国際関係学科・教授
2018	2021	ムンダ諸語における危機言語のドキュメンテーション	長田 俊樹	総合地球環境学研究所・名誉教授

『地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化』地域研究画像デジタルライブラリ DiPLAS採択プロジェクト一覧

研究期間		研究課題名	代表者	代表者所属機関
開始年	終了年			
2018	2020	仏領ニューカレドニア日本人移民史—写真の表象分析による実態解明とアーカイブ	津田 睦美	関西学院大学・総合政策学部・教授
2018	2021	アフリカ食文化研究の新展開：食料主権論のために	藤本 武	富山大学・教授
2018	2020	災害遺構の比較社会学—東日本大震災とスマトラ島沖地震を事例として	福田 雄	東北大学・助教
2018	2021	大規模災害に関する集合的記憶の物象化・物語化と防災教育	林 勲男	国立民族学博物館・教授
2019	2021	再現模写・仮想空間構築による敦煌莫高窟千仏図が有する規則的描写の複合的評価	正垣 雅子	京都市立芸術大学・准教授
2019	2023	アフリカ型都市建築保存手法の開発 都市における互助的ネットワークを使った試み	岡崎 瑠美	芝浦工業大学・建築学部建築学科・准教授
2019	2022	台湾「原住民運動」前史の生活世界の変容と実践：写真アーカイブスによる人類学的探究	宮岡 真央子	福岡大学・人文学部・教授
2019	2021	失敗国家の多元的地域研究—新生南スーダンにおける内戦の分析と平和への展望	栗本 英世	大阪大学・人間科学研究科・教授
2019	2022	ケニア人女性の越境と母国開発をめぐる人類学的研究	石井 洋子	聖心女子大学・現代教養学部・准教授
2019	2023	ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編	大坪 玲子	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・フェロー
2019	2021	新疆の形成とウイグル民族問題に関する調査研究	大野 旭 (楊 海英)	静岡大学・人文社会科学部・教授
2019	2021	アフリカ熱帯における狩猟採集民のサニテーションに関する人類学的研究	林 耕次	総合地球環境学研究所・研究部・研究員
2020	2023	マレーシア半島部オラン・アスリ集団の定住化と人口増加にかんする人口人類学的研究	河合 文	東京外国語大学・助教
2020	2022	パプアニューギニアにおける気候変動適応についての文理融合的共同研究	熊谷 圭知	お茶の水女子大学・名誉教授
2020	2022	マラウイ国の湿原域における住民の環境利用に関する生態人類学的研究	今井 一郎	関西学院大学・総合政策学部・教授
2020	2024	20世紀中期以降における焼畑と熱帯林の変容メカニズムの地域間比較研究	佐藤 廉也	大阪大学・教授
2020	2023	現代エチオピア高地における役畜農耕文化複合とローカルイノベーションの地域研究	田中 利和	龍谷大学・経済学部・准教授(特別任用教員)
2020	2024	フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開	島田 将喜	帝京科学大学・生命環境学部・准教授
2020	2021	ゾミア的空間の地球史にむけたプレリサーチ：非人間中心主義的展開への人類学的応答	内藤 直樹	徳島大学・准教授
2020	2023	現代アンデスにおける寄進と宗教性に関する研究：奉納品と教会記録の分析を中心に	八木 百合子	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・助教
2020	2022	伝統技術の言語化による継承可能性—ベトナム中部地域のゴング製作・調律の事例から	柳沢 英輔	同志社大学・文化遺産情報科学研究センター・嘱託研究員
2021	2023	中東ムスリム社会との長期現地調査資料の共有による文化遺産の共創と合意形成の研究	縄田 浩志	秋田大学・教授

2022年度からは、人間文化研究機構 共創先導プロジェクト(共創促進研究)「学術知デジタルライブラリ」の国立民族学博物館拠点(X-DiPLAS)として発展・継続しています。